

飯伊地区 産業経済動向

No.488 2019/11
(元. 12. 25 発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
地域サポート部
しんきん南信州地域研究所

http:// www. iidashinkin. co. jp
〒395-0044 飯田市本町 1 - 2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主 要 指 標		実 数	前 月 比	前年同月比
手 形 交 換 高 (飯田手形交換所扱)	枚 数	2,453 枚	△ 19.9 %	△ 22.4 %
	金 額	2,859,532 千円	△ 13.3 %	△ 23.2 %
う ち 不 渡 発 生 状 況	枚 数	1 枚	(前月 13 枚)	(前年同月 0 枚)
	金 額	257 千円	(前月 12,258 千円)	(前年同月 0 千円)
倒 産 件 数 (負債額 1 千万円以上)	県 内	8 件	(前月 6 件)	(前年同月 9 件)
	飯 伊	2 件	(前月 0 件)	(前年同月 3 件)
住 宅 着 工 戸 数 (飯田市、下伊那郡 総数) (10 月)		52 戸	△ 25.7 %	10.6 %
有効求人倍率 (パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内) (10 月)		1.38 倍	(前月 1.45 倍)	(前年同月 1.58 倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新 車	2,100 台	16.9 %	△ 8.4 %
	中古車	652 台	△ 14.3 %	14.0 %
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (10 月)	新 車	3,258 台	△ 44.1 %	△ 25.4 %
	中古車	890 台	△ 9.1 %	△ 8.0 %
中 央 道 利 用 台 数 (飯田インター分)	入	121,358 台	7.3 %	△ 1.5 %
	出	121,965 台	6.5 %	△ 0.7 %
中 央 道 利 用 台 数 (松川インター分)	入	90,870 台	12.0 %	△ 1.9 %
	出	89,335 台	14.7 %	△ 2.6 %
中 央 道 利 用 台 数 (園原インター分)	入	20,758 台	19.7 %	8.6 %
	出	20,633 台	19.4 %	7.8 %
中 央 道 利 用 台 数 (飯田山本インター分)	入	52,403 台	19.3 %	10.2 %
	出	53,194 台	19.1 %	10.6 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		146 件	△ 1.4 %	5.8 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		7 件	(前月 1 件)	(前年同月 4 件)
高 速 バ ス 乗 車 人 数	飯田～新宿	27,708 人	47.9 %	5.0 %
	飯田～名古屋	18,445 人	△ 4.0 %	3.3 %
	飯田～長野	8,873 人	0.3 %	△ 7.6 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	21,979 人	37.6 %	4.5 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,682 人	2.4 %	3.3 %
	右回り	3,393 人	△ 6.2 %	△ 5.1 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www. iidashinkin. co. jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみなさまとともにしています。



100%植物性インキ
[ナチュラリス100] を使用しました。

再生紙を
使用しています

概 況

製 造 業

11月の製造業の業況判断指数（DI）は、マイナス17.9で、前月から6.1ポイント上昇。翌月予測はマイナス22.2で、前月から18.0ポイント低下している。

電気、精密機械器具の受注残高は、前月比概ね横ばい。一部に前年比は減少との声。半導体、液晶製造装置向け部品の販売は、前月比横ばい～やや増加。一部に前年比も増加との声。景況感が好転した業者も見られた。産業機器や医療機器向け部品の受注の前月比は、「相変わらず下降中」など減少との声も複数あるが、横ばい～増加との声が多い。販売は前月比減少との声が少なくない。先行きの見方は業者により分かれるが、「この先もまだまだ様子見」など、不透明感を伝える声も少なくない。建築用金属製品の受注残高は、前月比横ばいとの声。自動車向け部品の販売は、前月比概ね増加、前年比も増加も、景況感に変化はないとの声が寄せられた。小型電磁機器の生産は、前月比減少、先行きも弱含みで、景況感も悪化との声。FA関連モーターの受注残高は、「産業機械向けが減少で推移」など前月比、前年比ともやや減少、景況感も悪化との声が寄せられた。光学機器部品の受注残高は、前月比、前年比ともやや減少、先行きも弱含みという。電気、電子製品の生産は、前月比やや減少、「コンシューマー市場が大幅に減っている」など景況感も悪化との声が寄せられた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は、やや増加との声。前年比について、やや減少との声が寄せられた。景況感が悪化した業者は見られないが、「消費の低調が続いている」との声も。水引製品の販売は、前月比横ばい～増加。前年比は業者により増減分かれる。漬物の販売は、前月比やや減少も、前年比概ね横ばい、「浅漬けの売上が低調と感じる」との声が寄せられた。

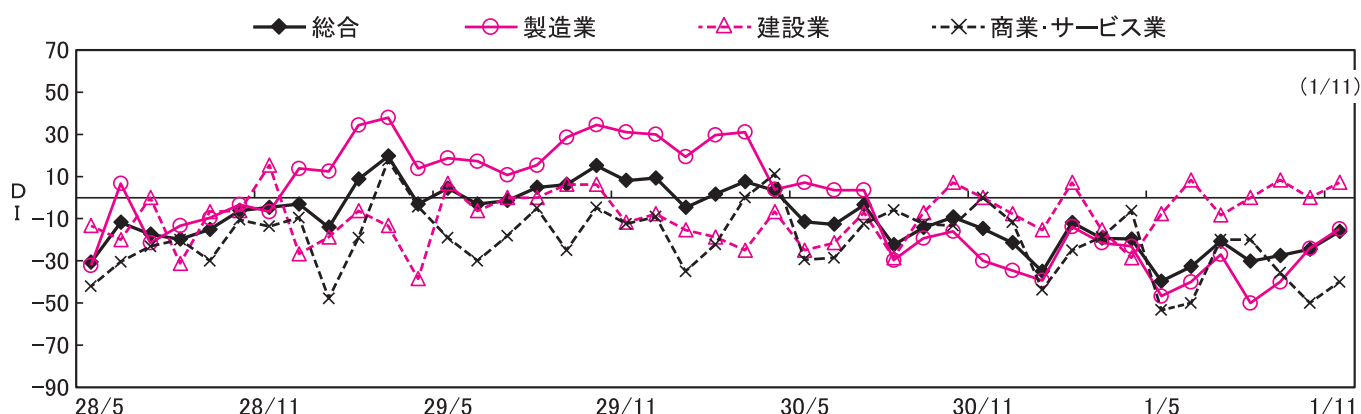
建 設 業

11月の建設業の景況DIは7.1で、前月から7.1ポイント上昇。翌月予測DIは0.0で、前月から13.3ポイント下降。当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約17.1億円、前月比9％増加、前年比も8％増加している（12月15日調査時点）。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、一部にやや減少との声もあるが、横ばい～増加との声が多数を占める。「公共土木は発注量が比較的多く、各社とも受注好調」などの声。10月の住宅着工戸数は52戸。前月比26％減少も、前年比は11％増加。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、横ばい～やや増加。「当社にとっては大型の民間工事受注。受注残高は増えた」「新築住宅はポツポツあるが、リフォームは仕事が薄い」などの声が寄せられた。

商業・サービス業

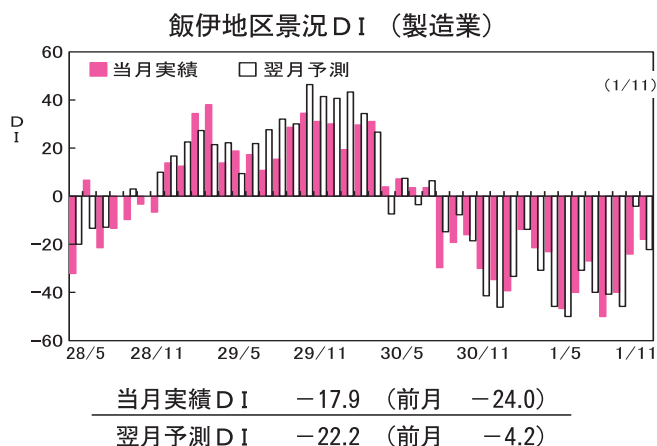
11月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス40.0と、前月より10.0ポイント上昇。翌月予測DIも、マイナス12.5で、前月より20.8ポイント上昇している。食料品の売上は、前月比やや減少～横ばい、前年比は、やや減少との声。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少も、景況感に変化はないとの声が寄せられた。電化製品の売上は、前月比増加も、前年比やや減少との声。家事用品卸の売上は、前月比やや増加も、前年比やや減少、「消費増税でやはり消費が落ちている。季節商品もまだまだ出荷が少ない」など、景況感も悪化との声。衣料品の売上は、前月比、前年比とも業者により増減分かれる。OA機器の売上は、前月比、前年比ともやや減少との声。土産物の売上は、前月比やや減少、「台風の影響によるところが大きい」という。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比17％増加も、前年比は8％減少。10月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比44％減少、前年比も25％減少。市内料理店の売上の前年比は業者により増減分かれる。昼神温泉の売上は、一部に前月比増加との声。前年比は減少の様子。タクシーの売上は、前月比やや増加も、前年比減少という。

飯伊地区景況DI（本誌調査）



製造業

地区内製造業の景況判断指数



当月の製造業の業況判断指数（DI）は、マイナス17.9で、前月から6.1ポイント上昇。翌月予測はマイナス22.2で、前月から18.0ポイント低下している。

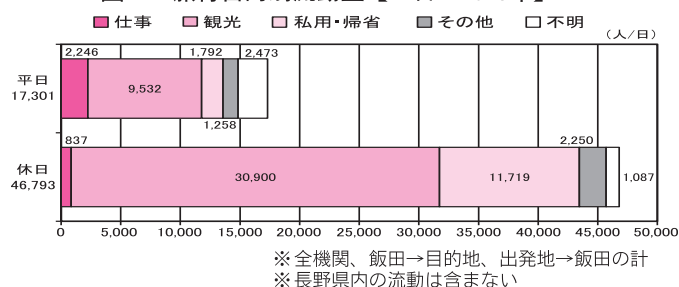
南信州の旅客純流動量

国土交通省「全国幹線旅客純流動調査」は、幹線交通の実態を明らかにする目的で、5年に1度、幹線交通機関を利用する旅客に抽出アンケートを行うとともに、交通量を併せて把握し流動量を推計している（以下の図表の出典は、特に断らない限り、国土交通省「全国幹線旅客純流動調査」以下「本調査」という）。

2015年の本調査によって飯田生活圏（飯田下伊那14市町村を指す。以下「生活圏」を省く。特に断らない限り他の地域についても同じ）の平日、休日各1日（以下「平日」「休日」とする）の流動量（全機関）をみると、休日の流動量は46,793人で、平日の約2.7倍の流動量がある。

全国の平日の流動量は、仕事（「通勤」「通学」）は除く。以下同じ）目的と観光目的がそれぞれ約3割で拮抗しているとされるが、飯田の場合、平日でも観光目的の流動量が多く、約55%を占めている。（図1）

図1 旅行目的別流動量【1日・2015年】

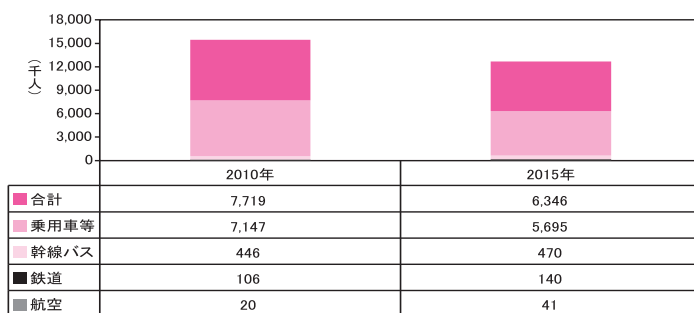


飯田を出発地もしくは目的地とする、年間の旅客流動量（全機関）の推移をみると、2015年は約635万人と推計されており、2010年調査時より約18%減少している。

また、全国では約75%が乗用車等を利用した流動であると言われるが、当地域を出発地もしくは目的地とする流動では、約89%が乗用車等を利用した流動である。（図2）

飯田を含む南信州は、2027年にリニア中央新幹線開通を迎える。そこで、先行事例として、1999年までに新幹線、高速道路の整備がなされていた、長野～東京圏（※1）の代表交通機関別年間旅客純流動量を見る

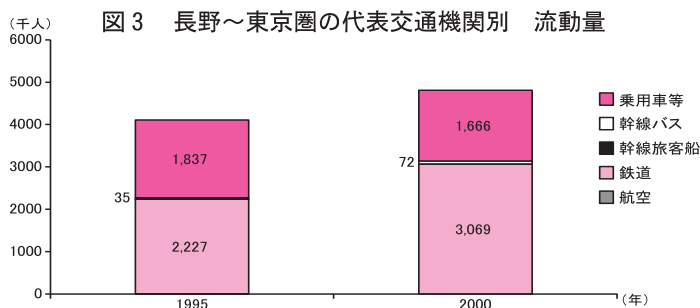
図2 代表交通機関別年間幹線旅客流動量・分担率の推移



※飯田→目的地、出発地→飯田の計
※長野県内の流動は含まない

と、1999年を挟む1995年調査時と2000年調査時を比べて、2000年調査時に流動量が増加している。また、新幹線開通後も、幹線バスの需要が一定程度あることが見て取れる。（図3）

図3 長野～東京圏の代表交通機関別 流動量



※1「東京圏」とは、2010年度全国幹線旅客純流動調査207生活圏ゾーンの内、東京都の3ゾーン、埼玉県、千葉県、神奈川県、神奈川県の4ゾーンである。長野市はかつて、東京まで在来線特急で約3時間を要したが、長野新幹線はその距離を最短79分に短縮した。

機械加工製造業

電気、精密機械器具の受注残高は、前月比概ね横ばい。一部に前年比は減少との声。当月の景況感が悪化した業者は見られないが、先行きの見方は分かれ、弱含んでいるとの声も。雇用面では現状維持の様子。一部に設備面で積極的な声が寄せられた。当月、原材料、資材価格や販売価格に大きな動きはなかったという。

半導体、液晶製造装置向け部品の販売は、前月比横ばい～やや増加。一部に前年比も増加との声。「3月に向けてのスポット的なものなのか、受注、試作が増加」「年度末に向け、緩やかではあるが、上昇」などの声が聞かれ、一部に景況感が好転した業者も見られた。先行きも上向きとの見方が多いが、「米中貿易摩擦により回復が遅れている部分もあり、本格回復はまだ先」との声も。「一部の製品良好」「3月以降に納期の製品増加。開発試作品増加」「FPD関連少々」などの声。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。雇用面では現状維持との声が多いが、一部に「派遣にて1名増員」との声も。設備面では、当月投資した業者も見られたほか、先行き予定する声も聞かれた。

産業機器や医療機器向け部品の受注の前月比は、「相変わらず下降中」など減少との声も複数あるが、横ばい～増加との声が多い。販売は前月比減少との声があるが、全体的には落ち込んでいるとの声を多く聞く。「部署によりバラつきがある」「食品向けの設備部

品が大きく減少」等の声のほか、「年度末に向けて緩やかに上昇」「一部製品は安定した受注状況」「客先の在庫を増やす動きもあって、単発的な受注が入り出した」「年末から年明け納期の物件が少し増加。特に年明けに集中しており、年内に仕上げるため製品在庫が増えている」「全体的に受注が少しずつ増えてきた」「航空宇宙関連は忙しい。民需も少し動きが出てきた」「短納期物は依然として多い」などの声も寄せられた。こうした中、景況感は、好転した業者、悪化した業者ともにさほど多くはなく、変化はないとする声が大勢を占める。先行きの見方も業者により分かれるが、「1月以降の仕事を心配する所が多い」「この先もまだ様子見」など、不透明感を伝える声も少なくない。

こうした中、設備面で積極的な声は聞かれない。雇用面でも現状維持との声が多いが、一部に「不足している。募集中」「研修生複数名入社。今後も募集を続ける」との声も、当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかったとの声が多いが、「年明けからステンレス値上がり」との声が聞かれた。

建築用金属製品の受注残高は、前月比横ばいとの声。景況感の好転には至らないまでも、「渋谷など都内の再開発が好調」との声が寄せられた。「今後非鉄金属が上昇していく見込み」という。雇用面、設備面で積極的な声が聞かれた。

自動車向け部品の販売は、前月比概ね増加、前年比も増加も、景況感に変化はないとの声が寄せられた。先行きにも大きな動きは見込まれていないという。

小型電磁機器の生産は、前月比減少、先行きも弱含みで、景況感も悪化との声。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。設備面で積極的な声が聞かれた。

FA関連モーターの受注残高は、「産業機械向けが減少で推移」など前月比、前年比ともやや減少、景況感も悪化との声。「中国における貿易摩擦の影響が国内販売で出ている」など先行きも弱含んでいるという。

光学機器部品の受注残高は、前月比、前年比ともやや減少、先行きも弱含みとの声が寄せられた。原材料、資材価格の当月大きな動きはなかったが、前年よりは低下しているという。設備面で積極的な声も。

電気、電子製品の生産は、前月比やや減少、「コンシューマー市場が大幅に減っている」など景況感も悪化との声が寄せられた。先行きも弱含みという。雇用面で不足感を指摘する声も。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は、やや増加との声。前年比についてはやや減少との声が寄せられた。景況感が悪化した業者は見られないが、「消費の低調が続いている」「通信販売、コンビニ向けなどが減少している」「ナショナルブランドは横ばいだが、プライベートブランドが不調」「韓国向け輸出がストップ」などの声。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。雇用面、設備面では現状維持との声が多い。

水引製品の販売は、前月比横ばい～増加。前年比は業者により増減分かれる。「年末向け商品の出荷の最盛期。受注品の出荷は滞りなく進んだが、一方でスポットの引合、受注が少なく感じた」「正月飾りの発注が早かったのが概ね完納できた。まだ若干起きているが、早めに納品して今年を終えたい」「各社正月飾りで繁忙だが、例年通りの注文があったとの声が多い。ただ、全体の数量が増えたわけではなく、1社が増えれば1社が減るといった状況。利幅も小さくなっている。こうした中、出尽くしてきた感があるとはいえ、新製品を望む声は多い」「12月の運送業者の手配がま

まならない」などの声が寄せられた。「小売店の閉店のお知らせが増えてきたように感じる。出生率の低下などで今後人口減少が顕著になるだろうが、今後もこうした傾向は続くだろう」など、長期的な市場環境を考慮する声が寄せられた。「県、市さらには地元新聞社など飯田水引を活かした製品の受注やイベントの依頼があり、組合で対応している。大変ありがたい」という。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。

漬物の販売は、前月比やや減少も、前年比概ね横ばい、「浅漬けの売上が低調と感じる」との声が寄せられた。「原料はここまでそれなりに安定していた。年末にかけての需給状況には注視していく」という。

その他製造業

食品関連包材の生産は、前月比横ばい、先行きは弱含みとの声。当月、原材料、資材価格がやや低下したという。

印刷、出版関連の売上は、前月比やや減少、前年比概ね横ばい、「結果的に前年並みとはいえ日々の稼働状況は多少さびしい感があった」との声が寄せられた。「年賀状の受注は年々落ちている。文中に『今年を最後に』と入れる高齢のお客様もある」「一昔前の11月はえびす講で商店街も賑わったものだが、淋しい限り。ブラックフライデーなるものには全く関係なかった」などの声が寄せられた。当月、原材料や資材価格に大きな動きはなかった様子。

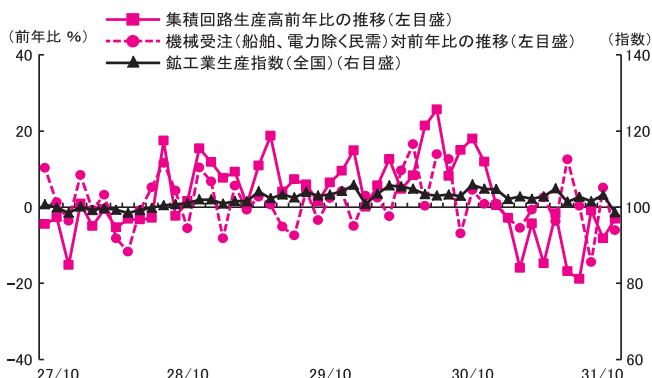
衣料品の受注は、「冬物の売れ行きが悪い上に、春夏物の仕入ができない」など、前月比、前年比とも減少との声。「ネット通販は返品が自由で運賃着払いのため、輸送費の高騰が収益を悪化させている。改善を迫られているが、返品自由のうたい文句が崩れてくれば今度は販売が低下する恐れがある。人件費高騰や休日増加が企業の重荷になりつつあり、なかなか状況が好転しない」「消費増税前の駆け込み需要もなく、巷のバーゲン是好調。気候変動の要因が大きく、秋が長く気温も高かったことに加え、バーゲン時期に冷え込んできたため需要が生まれた。冬物の在庫が捌けた感もある」などの声が寄せられた。

住宅機器、オフィス家具、店舗用什器の生産は、前月比、前年比とも減少との声。「相変わらず非常に悪い状態。年明け後も変わらないのではないかな」など景況感も悪化しているという。

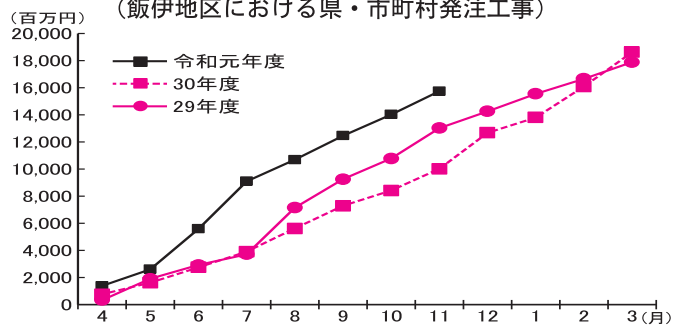
【企業からのコメント】

- ★消費増税や台風で、景気は悪くなったと感じる。
- ★経済状態は早くも厳寒状態。
- ★最新設備を導入し、生産性向上、スキルアップに努めている。

集積回路、機械受注・鉱工業生産指数の推移



入札額累計の推移
(飯伊地区における県・市町村発注工事)



(資料：新建築入札結果欄より抜粋)

当月景況DI 7.1 (前月 0.0)

翌月予測DI 0.0 (前月 13.3)

官公需

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約17.1億円、前月比9%増加、前年比も8%増加している(12月15日調査時点)。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、一部にやや減少との声もあるが、横ばい～増加との声が多数を占める。「通常の工事発注が始まっている」「公共土木は発注量が比較的多く、各社とも受注好調」「国土強靱化、台風災害復興工事など建設業は繁忙。手持ち工事を完成させ、年度またぎの工事など、今後の受注を目指す」「発注の遅れていた市町村の点検業務が増えている」「災害対応に関わる受注が増えている」「大型物件は減少しているが、能力分の受注は確保できている」「受注残高は前年比増加」「小型の公共工事を受注」「土木は忙しく、手一杯のところも多そう」などの声が多い。

こうした中、依然「法面工や、ガードマン、左官工といった職人、技術者が不足」「施工社員不足」「当月複数名入社。今後とも入社予定」「農業従事者を頼んでいる。今後はそれに加え定年退職者も頼むことになりそう」「不足。複数名雇用予定」「法面、舗装、一般土木の施工業者は仕事量が多く順番待ち」など人手不足を指摘する声は多く、「ハローワークの求人も多く、以前より給与単価も上昇気味」「受注できても完成時期が予定より遅れる」「協力業者の施行順番待ちなどで完工高はなかなか上がらない」「入札の不調や入札者ゼロといったケースも見られる」などの影響が出ているという。

先行きの見方は分かれ、受注残高の減少を見込む声も複数聞かれた。

建設技能労働者の需給状況

国土交通省の建設労働需給調査では、建設技能労働者の需給状況等を職種別・地域別に毎月把握している。同調査では建設技能労働者の需給状況を、過不足率を用いて表しており、数字がプラスなら不足、マイナスなら過剰となる。10月の同調査結果によると、職種別には鉄筋工(建築)以外の職種で不足となっており、鉄筋工(土木)の不足率2.9%が最も大きい。また、鉄

職種別の過不足率の状況(全国・原数値)

	今月過不足率	前月過不足率	対前月増減	前年同月過不足率	対前年増減
型わく工(土木)	1.8%	1.8%	0.0	1.9%	△ 0.1
型わく工(建築)	2.2%	2.0%	0.2	2.6%	△ 0.4
左官	2.6%	1.0%	1.6	1.2%	1.4
とび工	2.7%	2.2%	0.5	2.3%	0.4
鉄筋工(土木)	2.9%	3.9%	△ 1.0	2.1%	0.8
鉄筋工(建築)	△ 2.5%	1.0%	△ 3.5	3.5%	△ 6.0
6職種計	1.8%	2.0%	△ 0.2	2.5%	△ 0.7
電工	1.6%	1.1%	0.5	0.7%	0.9
配管工	1.8%	1.8%	0.0	1.2%	0.6
8職種計	1.7%	1.7%	0.0	1.9%	△ 0.2

(資料：国土交通省「建設労働需給調査結果」令和元年10月)

筋工(建築)の過不足率について、対前年の減少幅が大きくなっている(3.5%→△2.5%)という。

民需

当地区の10月の住宅着工戸数は52戸。前月比26%減少も、前年比は11%増加。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、横ばい～やや増加。「当社にとっては大型の民間工事受注。受注残高は増えた」「公共工事に加え、交通機関や民間工事などがあり繁忙」「住宅改修工事中。新築の受注はなかった」「新築住宅はポツポツあるが、リフォームは仕事が薄い」などの声が寄せられた。ここでも「建築の下請けさんも仕事は目一杯のよう」「総じて建築は仕事が薄い。職人もだんだん減ってくる。忙しくなっても仕事ができない悪循環」との声が聞かれた。

建設資材

塗料や建設資材の売上は、前月比やや減少～概ね横ばい。前年比は、やや減少との声が多い。「消費増税による需要の先食いが多少影響しているようにも思われる」「大型の公共工事があまりないように思う」などの声が聞かれ、景況感が好転した業者見られない。仕入価格が上昇しているとの声は多い。

鋼材の売上は、前月比概ね横ばいも、前年比減少、「上向きの話はなく、前年に届かない月が多い。どの業種にも明るい話はないが、地方に関してはどこも同じような情勢の様子」などの声が寄せられた。先行きに関しても「回復の兆しもなく、先行きが読めない。今までで最も悪いように感じる。年末から年明けにかけて少しでも動いてくれることを祈るばかり」との声が聞かれた。鋼材価格について、「鋼材は概ね横ばいも、ステンレスは上昇。非鉄系は下降気味」という。

生コンの売上は、前月比、前年比とも調査先により増減分かれるものの、「相変わらず生コンは出荷がない」など景況感が好転した業者は見られない。当月の主な出荷は、「三遠南信自動車道工事、砂防堰堤工事、床固工事、治山工事、発電所工事、工場新築、増築工事に関わるもの」という。「リニア関連工事の出荷量は、当月全体の3%未満」という。

骨材の売上は、前月比増減まちまち。総じて前年比はやや減少。「今年度の出荷は前年同時期より減少している」「生コンの冷え込みは痛い、現場納入骨材で何とかカバーしている」「リニア関連工事がまだ始まらない」などの声が寄せられ、景況感が好転した業者はみられない。

【企業からのコメント】

- ★法面吹付業者がいないという話が多い。仕事を取りたくても手配できず入札辞退との話も聞いた。需要に特殊専門業者が足りない状況で、同種の工事がまとまって出過ぎのようにも感じる。
- ★法面工事、舗装工事が非常に多い。この種の工事は生コンが使用されず、建設会社が忙しい割に生コンは動かない。
- ★当社は農業分野に進出しているが、農産物の従来の販路が小さくなりそう。大きな影響がある。新販路の開拓や、作業単価の見直しが必要になりそう。

住宅建築確認申請受付状況(※本誌調査による概数)

11月 ○飯田建設事務所分

新築 5件 (前年 16件)

増築 4件 (前年 1件)

○飯田市区役所分

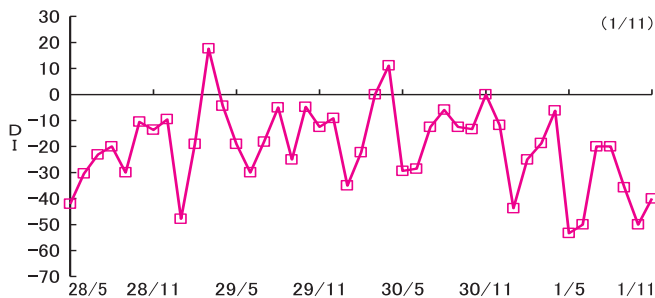
新築 23件 (前年 21件)

増築 1件 (前年 1件)

※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業

商業・サービス業DI



当月景況DI -40.0 (先月 -50.0)

翌月予測DI -12.5 (先月 -33.3)

商業

食料品の売上は、前月比やや減少～横ばい、前年比は、やや減少との声。景況感に大きな動きは見られないものの、「来店客数、買上点数共に減少」等の声が聞かれ、景況感が好転した業者は見られない。「野菜、果物の価格が上がっている。品不足の品もある」など、仕入が上昇しているとの声は多い。年末に向け、「商品在庫増加」「アルバイト確保」等の声が聞かれた。

〔青果卸売市場〕

販売は前月比、前年比ともやや減少という。野菜は、「秋野菜の大根、白菜、ほうれん草、ブロッコリーなど、10月の台風と雨の影響で入荷減。全体では入荷量20%減で、価格は19%高。一昨年並みの価格に戻つつある」という。果実は、「りんごの作柄が悪く、贈答に向かないものが多い。みかんの入荷も減少。干し柿の出荷も遅れ気味で12月に期待。全体では入荷量17%減で、価格は11%高となった」という。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少も、景況感に変化はないとの声が寄せられた。

電化製品の売上は、前月比増加も、前年比やや減少との声。「暖房機器等、季節商品の伸びが悪い。気温が下がり苦戦」「台風19号の災害関連の需要は続いている」「トンネル等の保守、点検、改修が多く、LED照明、換気扇、特殊照明が伸びている」「製造業では米中貿易摩擦の影響も強いようで、悪い業種も見受けられる」などの声が寄せられた。

家事用品卸の売上は、前月比やや増加も、前年比やや減少との声。「消費増税でやはり消費が落ちている。季節商品もまだまだ出荷が少ない」など、景況感悪化との声。紙類などで「やっと間に合ってきたが、価格は高止まり」という。

衣料品の売上は、前月比、前年比とも業者により増減分かれる。「駆け込み需要の反動があったが、回復した感」といった声の一方、「先月までまずまず順調だったが、製造分野で厳しくなる話が多く、実際そんな感じがある。建設業がまずまずとはいえ、需要は読みにくい」「寒さも今一つ厳しくならず、防寒衣料は伸び悩み」等の声が寄せられた。

OA機器の売上は、前月比、前年比ともやや減少との声。「顧客は引き続き慎重姿勢を維持している感があり、厳しい。パソコンの需要に助けられている面がある」などの声が寄せられた。「年末年始で稼働日が少なくなるので、早めに動いていきたい」との声が寄せられた。

土産物の売上は、前月比やや減少、「台風の影響によるところが大きい」との声。「運送費等が上昇」という。

松本自動車検査登録事務所管内の**自動車新規登録台数**は、新車は前月比17%増加も、前年比は8%減少。

中古車は、前月比14%減少も、前年比は14%増加している。10月の県全体の**軽自動車新規登録台数**は、新車は、前月比44%減少、前年比も25%減少。中古車は、前月比9%減少、前年比も8%減少。

サービス業

市内料理店の売上の前年比は業者により増減分かれる。一部に前月比増加との声。しかし、「先月より良かった」というものの、夜のお客様が少なく、お酒を飲まないなど、景気は良くないと感じる」「忘年会、新年会シーズンが控えているが、今年は伸びが少ない感。景気はあまりよくないと思われる」「消費増税に伴う不景気が言われることが多いが、高齢化の影響も大きいと感じる。会社関係を含む若者が少人数化し、単価も低い一方で、年齢層の高い宴会は比較的単価も良い」「量を少なくして単価を下げた。お客様は値段に敏感になっている。付加価値を付けて満足してもらう工夫が必要」「当地域は飲食店が多いと思われるが、同業からは、混む店と、そうでない店と別れているとの声も多く聞かれる」などの声が聞かれ、総じて景況感が好転した業者は見られない。

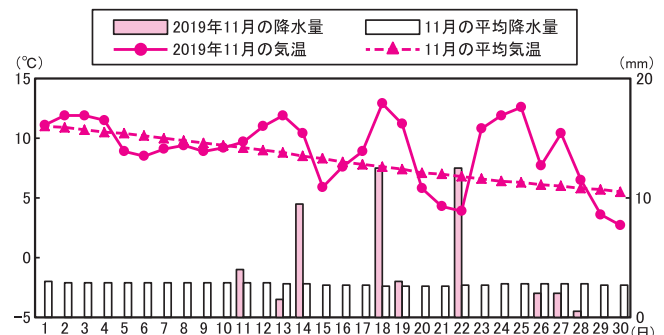
昼神温泉の売上は、一部に前月比増加との声。前年比は減少の様子。「台風以来旅行を自重する傾向を一層強く感じる。団体ツアーが明らかに減少している。今月末から忘年会の動きも始まっているが、盛り上がり欠けている」「秋の行楽シーズン最終月という賑わいも、今は昔と言った感。リング狩りも人気だが、台風被害で行楽を楽しむといった感じにはならない様子」「消費増税の影響も大いにあると見る。決済方法が随分変わった」「全体の流れはどの施設も同じなのだろうが、売上低下の程度には差があるように思う」などの声が寄せられた。先行きに關し、「スキー場のシーズン入りが早ければ良いのだが」「ウィンタースーズンが始まるが、期待して良いものかどうか」などの声。「夜間のフロント人材が取り合い」など、人手不足は依然深刻な様子。

タクシーの売上は、前月比やや増加も、前年比減少との声。「消費増税は様々な消費に影響するだろうが、タクシーの乗り控えは毎回数か月間数字に表れる。税抜きで見ると実質値下げで経営環境は悪化している」「メーター器入れ替えに加え、キャッシュレス対応の経費も増加している。運賃の改定など、持続的にサービスを提供するための方策を検討する必要があるのではないか」などの声が寄せられた。LPG 価格は「少し値下がり」という。

【企業からのコメント】

- ★特に個人商店では代替わりができず廃業するところも多いようで、市場も人が少なくなっている。
- ★10、11月と売上が少なく、なかなか厳しい。
- ★「人員が少し足りない。増員したいと思う」「試用期間だが、配送のための人員増員。サービスマンも増員したいが」

飯田の気温と降水量



頑 張 れ 町 工 場 ！

飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課
中小企業支援アドバイザー 佐々木信高

イノベーション経営（改革・変革・技術革新）が求められる中、ヒット商品を生み出したり、新しいサービス方法を提案したりして一躍脚光を浴びる中小企業があります。こんなヒット商品を生み出す町工場2社の頑張る姿がテレビで紹介されていました。

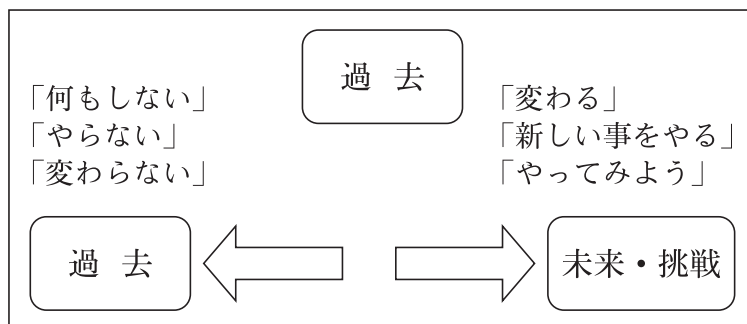
紹介された1社は、水道水の節約蛇口を販売する会社です。平均9割という節水率と高い洗浄力をもつ節水ノズルの製造会社です。水圧だけで脈動流という空気を含んだ玉状の水を連続して放出させ、電気を使わずに高い節水率と洗浄力を誇るノズルです。社長は3代目ですが、当初は、父親の機械加工業に魅力を感じず、IT会社を設立してネット販売をしていました。開発のきっかけは、他社の節水製品をインターネットで販売したいと依頼を受けましたが、もっと安いものができるのではないかと考え、父親の会社の旋盤を使って独自で開発して製品化したことでした。公立小学校や飲食チェーン店に無償で試作品を配布して実証実験をしたところ、水道料の大幅削減に成功、独自販売にこぎつけました。アイデアやヒントは突然頭に浮かぶとのことで、ヒラメキのタイミングがあれば、24時間すぐにメモを取るようにしているそうです。こうした積み重ねがヒット商品になったのでしょう。

2例目の会社は、繊維に撚りを掛けて糸をつくる紡績会社です。繊維の間に空洞をつけることによって水を通しやすく、柔らかく吸水が早い生地ができる特徴があります。取引先からの提案もあり、開発した生地を使ってバスタオルの半分サイズの柔らかく吸収性が高いタオルです。最初は、普通のバスタオルサイズで販売していましたが、なかなか売れませんでした。従来の売り出し方法は、「柔らかい」「高い吸収性」と機能中心であったために、消費者がイメージしにくかったのでしょう。伝え方を変えてみようとして「サイズが半分で髪の毛を含めて全身を拭ける」という場面を売りにしたところ、洗濯物を干すスペースが少なくてすむことが主婦層の口コミで広まり一躍ヒット商品となりました。

2社に共通する点は、①企業は、変わらなければダメだという熱い情熱、②ヒラメキ、アイディア、智恵を持ち合わせていたこと、③機会を捉えていること、④確かな技術力、といったことではないかと思います。

イノベーション経営では、①新しい生産物の創出、②新しい生産方法の導入、③新しい市場の開拓、④新しい資源の獲得、⑤新しい組織の実現をしていくことが、企業の衰退を防ぐことであるとされます。人口減少の時代、高度成長が望めない中、安定状態を維持したいと考える企業があるのも理解できますが、現状を維持し安定するためには変わらなければなりません。それは、自分が変わっていても周囲が常にレベルアップして変わっているからです。自分が変わらなければ、周囲と比べると相対的に衰退してしまうからです。世の中より先に進んでいくためには、「何もしない」「やらない」「変わらない」を捨て、「変わる」「新しいことをやる」「やってみよう」に挑戦することだと思います。しかも「こうすれば上手くいくんだ」という仮説を立てていくことが大切だと思います。

時代は進化し続けている。変わらなければ、衰退あるのみ



今、国は、中小企業や小規模事業者に対して各種補助金の支援をしています。この補助金に共通していることは、企業に「改革・変革・技術革新」を求めている点です。

いくつかの補助金を紹介します。（下線の部分に注目してください）

■「ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金」の目的は、

足腰の強い経済を構築するため、生産性向上に資する革新的サービス開発・試作品開発・生産プロセスの改善を行うための中小企業・小規模事業者の設備投資等の一部を支援します。

■「事業承継補助金」の目的は、

後継者不在等により、事業承継が困難になる事が見込まれている中小企業者等が、経営者の交代や、事業再編、事業統合を契機とした経営革新等を行う場合に、その取り組みに要する経費の一部を補助することにより、中小企業者等の世代交代を通じたわが国経済の活性化を図ることを目的とします。

■「サービス等生産性向上IT導入支援補助金」の目的は、

中小企業・小規模事業者等における生産性向上のため業務プロセスの改善と効率化に資するソフトウェアとそれに係る役務等を導入する事業を実施する者に対する事業費等に要する経費の一部を補助する事業を行うことにより、中小企業・小規模事業者の生産性向上の実現を図ることを目的とする。

■「小規模事業者持続化補助金」の目的は、

持続的な経営に向けた経営計画に基づく小規模事業者の地道な販路開拓等の取り組み（例：新たな市場への参入に向けた売り方の工夫や新たな顧客層の獲得に向けた商品の改良や開発等、地道な販路開拓等と合わせて行う業務効率化（生産性向上）の取り組みを支援するため、それに要する経費の一部を補助するものです。

このように、国の考え方も、企業に新しく変わってもらいたいという思いが込められています。

今年のノーベル化学賞では、リチウム電池開発の吉野彰さんが受賞されました。会見では、若者向けに「3つの壁を乗り越えてほしい」とメッセージを送りました。最初の壁は、基礎研究段階での「悪魔の川」、多くのプロジェクトが対岸まで泳ぎ着かず脱落してしまい研究段階で終わってしまう。この段階を過ぎると、2つ目の壁で、さまざまな問題が立ち上がる「死の谷」が待ち受けている。研究者は、実験でよい結果が出ると会社に「人をよこせ、金をよこせ」と言い出す。会社は、予算をつけた成果を求めようになりプロジェクトが耐えられなくなってしまう。吉野さんは、この段階は、人手を掛けず最小限の人数と予算で研究するのが良いとのこと。最後の壁は、「ダーウィンの海」の段階。研究成果が実り、事業化に進んだものの、企業や消費者に見向きもされない段階で、リチウム電池の出荷が伸び始めるまで5年もかかったという話でした。吉野さんの研究開発における貴重な経験が垣間見える会見でした。

このように、新しいものを生み出すには紆余曲折があります。この地域にも素晴らしい経営資源や智恵・アイディアを持った中小企業や小規模事業者が存在し、変わる要素は十分にあると思いますので、ぜひイノベーションに挑戦してもらいたいと思います。

最後に、ものづくりに携わる皆様にエールをお贈りします。

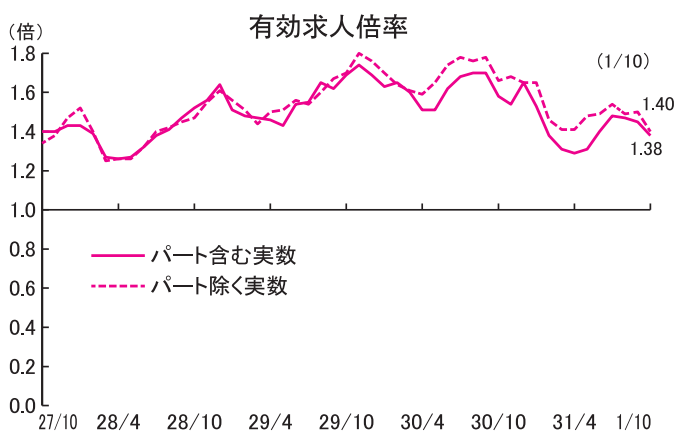
令和の未来に向かって「頑張れ町工場！」

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

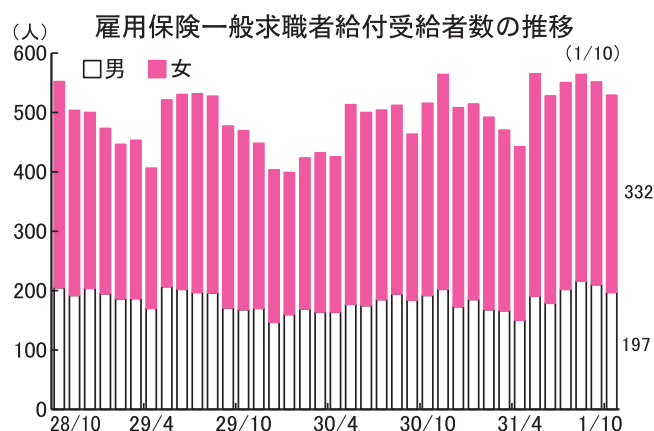
今回執筆を担当した当金庫専門アドバイザー 佐々木信高 は、商工会、商工会議所で地元中小企業の支援業務に長く携わった経験を基に、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、お取引の支店、または 飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課（飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132）まで お気軽にお申し付けください。

雇用の状況



10月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で1.38倍と、前月から0.07ポイント下降。パートを除く実数は1.40倍で、前月から0.10ポイント下降している。



10月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は前月に比べ、男性は13人減少、女性は9人減少、全体では529人と前月から22人減少している。

（資料：ハローワーク飯田）

リニア新幹線沿線信用金庫共同調査

リニア中央新幹線に関するアンケート調査結果概要(1)

～ 長野県・飯伊地域は期待と不安が交錯 ～

当金庫が取り組んできたリニア沿線地域信用金庫連携の一環として、本年度関係金庫によりリニア沿線地域での共同調査を実施した。山梨県が甲府信用金庫・山梨信用金庫（本店：両金庫とも甲府市）の2金庫、岐阜県が東濃信用金庫（本店：多治見市）と当金庫の4信用金庫である。山梨信金は神奈川県橋本などに、東濃信金は愛知県内に店舗網があるため、調査は神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知の5県に跨る広域的なものとなった。

沿線調査の結果については、現在4金庫により取りまとめと共同コメントの準備を進めている最中であり、今回は、当金庫調査の飯伊地域を中心とする長野県分について、結果概要を紹介する。

1 長野県分の調査概要

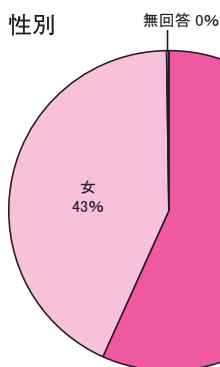
当金庫のアンケート調査は、本年6月飯伊地域を中心に当「飯伊地区産業経済動向」の調査先および配布先にアンケート調査票を発送し協力をお願いした。また、当金庫本支店23店舗で店頭または訪問先の取引先などに依頼し回収した。ご協力いただいた方々にはこの場を借りてお礼申し上げます。

回収数は430件となり、前回（平成27年度）の調査の回収数330件を上回り、当地域での意識の高まりを感じるものであった。うち回答者の10代には、下伊那農業高校の3年生1クラスが協力いただいている。

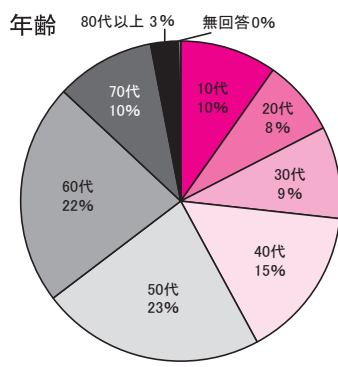
更に、アンケート調査期間の終盤になって、別に飯田OIDE長姫高校の3年生ほぼ全員の227名から協力を得ることができた。この分を含めると回答者の年齢別構成が従来調査結果とは大きく変わるものとなるため、この分は別途「リニア中央新幹線 高校生の意識」といった形で集計し、報告することとしたい。

回答者の属性概要

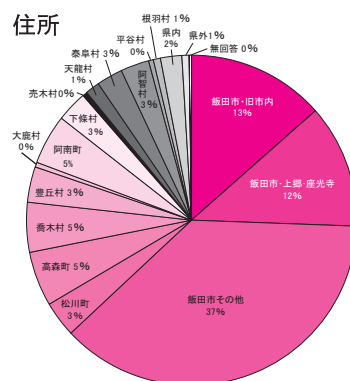
性別



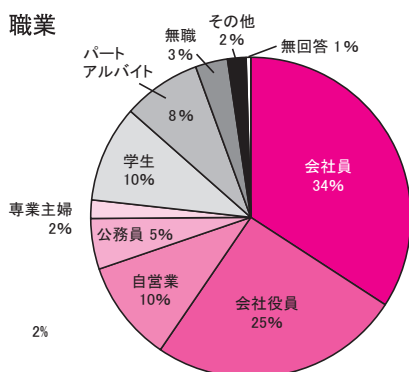
年齢



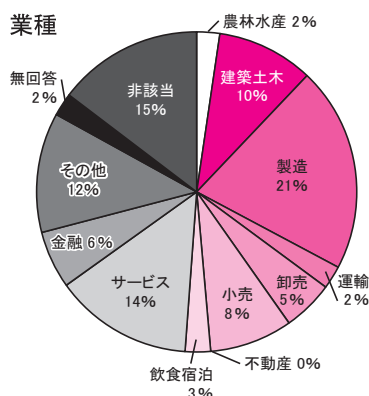
住所



職業



業種

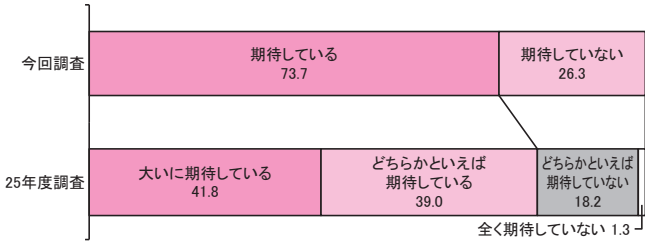


回答者は、「飯伊地区産業経済動向」の調査先、配布先が多数を占めているため、事業所トップからの回答が多く「職業」で「会社役員」が多い(25%)。また会社役員以外にも、事業所の幹部社員、経理担当者などからの回答が多く、どちらかというと経済界、産業界の意見を反映したものであると思われる。

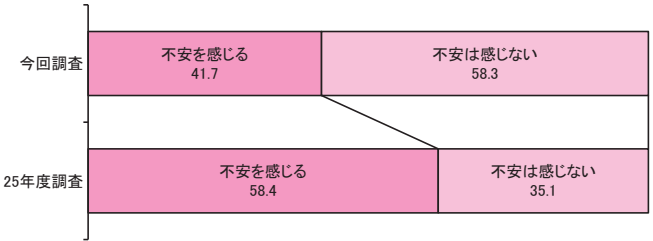
2 リニア中央新幹線への期待度・不安度は

当金庫では、平成25年度にも経営相談所(当時)により、リニアアンケート調査(以下「25年度調査」という)を実施している。今回は、定点観測として、25年度調査と同一の質問項目を設定した。

Q リニア中央新幹線に期待しますか



Q リニア中央新幹線に不安を感じますか



「リニア中央新幹線に期待していますか」の設問では、今回調査で「期待している」が73%、「期待していない」は26%であった。25年度調査では設問が「大いに期待している」「どちらかというと期待している」の区分でお尋ねしているが、合計で80%、「どちらかというと期待してない」「全く期待していない」計で19%となっている。両調査の違いとして考えられるのは、

- ① 25年度調査時点では飯田に駅ができることなどが決まったものの、リニア新幹線および関連事業について全貌が判明していない時点での判断だった。
- ② 25年度調査も「飯伊地区産業経済動向」調査先・配布先を中心にお尋ねしているが、一般住民の比率が今回調査より少ない(より産業界の期待が反映されていた)。
- ③ 今回調査に至るまでの間、リニアおよび同関連事業の内容が判るようになってきて判断が明確になってきた(変化してきた)。

などが考えられる。「期待する」の判断の上では、リニアの乗車料金がどれほどになるか、が今後重要な判断材料と考えられる。

次に、「リニア中央新幹線に不安を感じますか」という設問について、今回調査では「不安を感じる」は40%、「不安を感じない」は56%となった。「不安を感じる」とする比率が減少しているのは、「期待していますか」の設問の要因と同様で、この間多くの情報が得られて来ていることが最大の要因と思われる。

今回、「不安を感じる」方が自由記入で書いていただいた項目別に検索してみた。

・「不安を感じる」の回答	170		
・うち自由記入いただいた方	144		
・回答に次のキーワードを含む			
「人口」(減少・流出)	29	「工事」(遅れ・進捗)	5
「ストロー」(効果・現象)	14	「景観」(破壊・劣化)	3
「自然」(破壊等)	13	「対応」(来訪者・観光客への)	3
「事故」(工事中・開通後等)	12	「喪失」(地域の資源・大切なもの)	2
「環境」(破壊・劣化)	11	「若年」(人口の流出等)	2
「騒音」	10	「反社」(の流入)	2
「通過」(駅・点)	10	「街」(の変化等)	2
「電磁波」	8	「財政」(圧迫等)	2
「料金」(乗車料金等)	5		

3 リニアに関する認知度は総じて高い

リニア及び関連事業について、「以下（の計画）についてご存知ですか」として、各項目を尋ねた。

当地域の方々は「リニア新幹線の開業時期」、「リニア本線の通るルート」、「リニア長野県駅の場所」の項目で、「よく知っている」「聞いたことはある」合計で90％程度、他県では70～80％程度であり、当地域での認知度が他県より高くなっている。その中で特に、「開業時期・よく知っている」の回答では当地域は43％であるが、神奈川県、山梨県は10％台半ばとなっている。岐阜県は30％半ばで当地域に続いている。

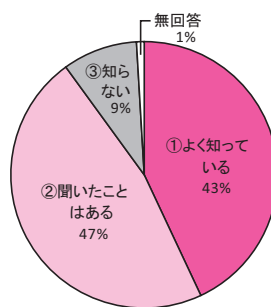
「品川～長野県駅の所要時間」「長野県駅～名古屋駅の所要時間」では両方の合計で80％前後であるが、「品川～長野県駅の乗車料金」「長野県駅～名古屋駅の乗車料金」は「よく知っている」「聞いたことはある」計で40％台とやや低いものの、他県が20％程度であることをみるとこれも高い水準にある。これについては長野県がリニア新幹線の料金を試算して発表し、新聞等で報道されたことが一因と考えられる。

当地域が他県に比較して全般的に各項目で認知度が高いのは、前項の「新幹線へ期待する」において、当地域が73％であったの対し、山梨県2金庫の調査（東濃信金には質問項目なし）では40～50台％に止まっていて、この期待値の違いが現れているものとみることができる。

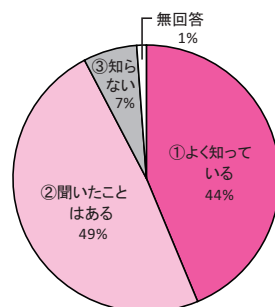
「スーパーメガリージョン」については、当地域では「よく知っている」6％、「聞いたことはある」13％と認知度が低い、それでも神奈川、山梨、岐阜、愛知の各県（「よく知っている」「聞いたことはある」合計で10～15％程度）と比べると認知度は高い結果となっている。

Q 以下についてご存知ですか

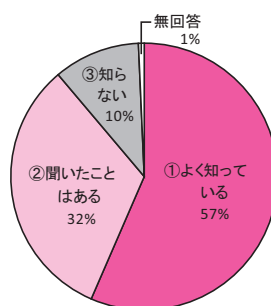
■ リニア新幹線の開業時期



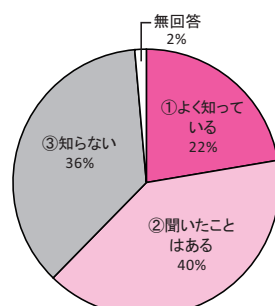
■ リニア本線の通るルート



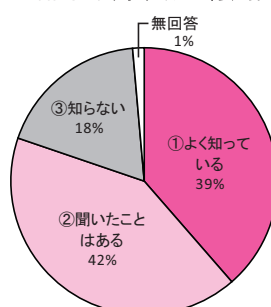
■ リニア長野県駅の場所



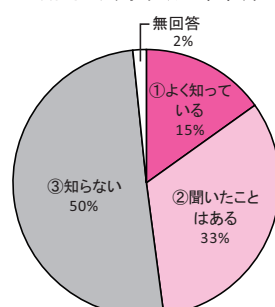
■ アクセス道路・駅周辺整備



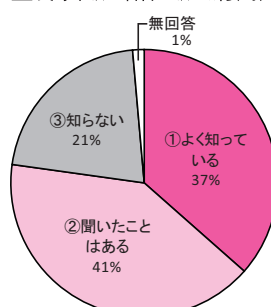
■ 品川～長野県駅の所要時間



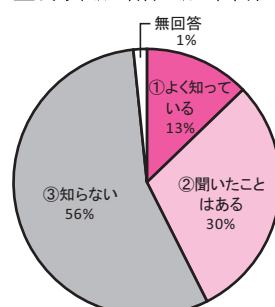
■ 品川～長野県駅の乗車料金



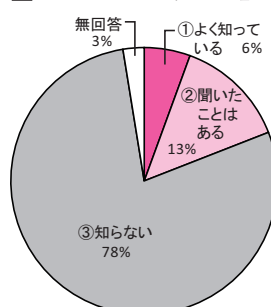
■ 長野県駅～名古屋駅の所要時間



■ 長野県駅～名古屋駅の乗車料金



■ スーパーメガリージョン



4 リニアの利用、利用する駅は ～当地域は圧倒的に「長野県駅」～

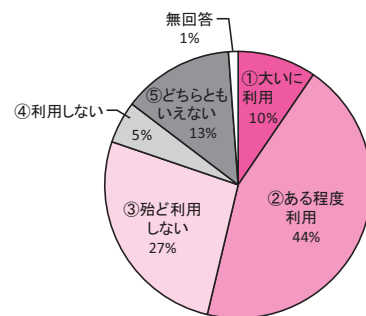
リニア中央新幹線の利用や期待感、リニアの影響について尋ねた。

リニアの利用・乗車については「大いに利用」「ある程度利用」合計で55%。県別にみると、神奈川、山梨、岐阜、愛知の各県は20%台であり、当県・地域の期待の大きさが窺われる。

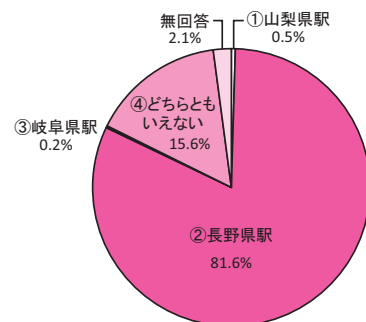
リニアを利用する駅（乗降する駅）では、当地域では「長野県駅」との回答が81%となった。前の設問の「大いに利用」「ある程度利用」と回答された方の殆どが「長野県駅」と回答。「殆ど利用しない」と回答した方にも利用駅を「長野県駅」とする方が8割方あった。乗降駅を「どちらともいえない」とする方は、リニア利用の「利用しない」「どちらともいえない」回答が占めた。

県別にみると、神奈川県の回答で「神奈川県駅」としているのは71%、山梨県で「山梨県駅」とするのが79%。岐阜県では「岐阜県駅」は30%台（「名古屋駅」とする回答も30%程度あり）、愛知県では「名古屋駅」とするのが50%程度で、長野県調査では「地元駅を利用」とする回答が他県を上回っている。

■ リニアの利用は



■ 乗降する駅



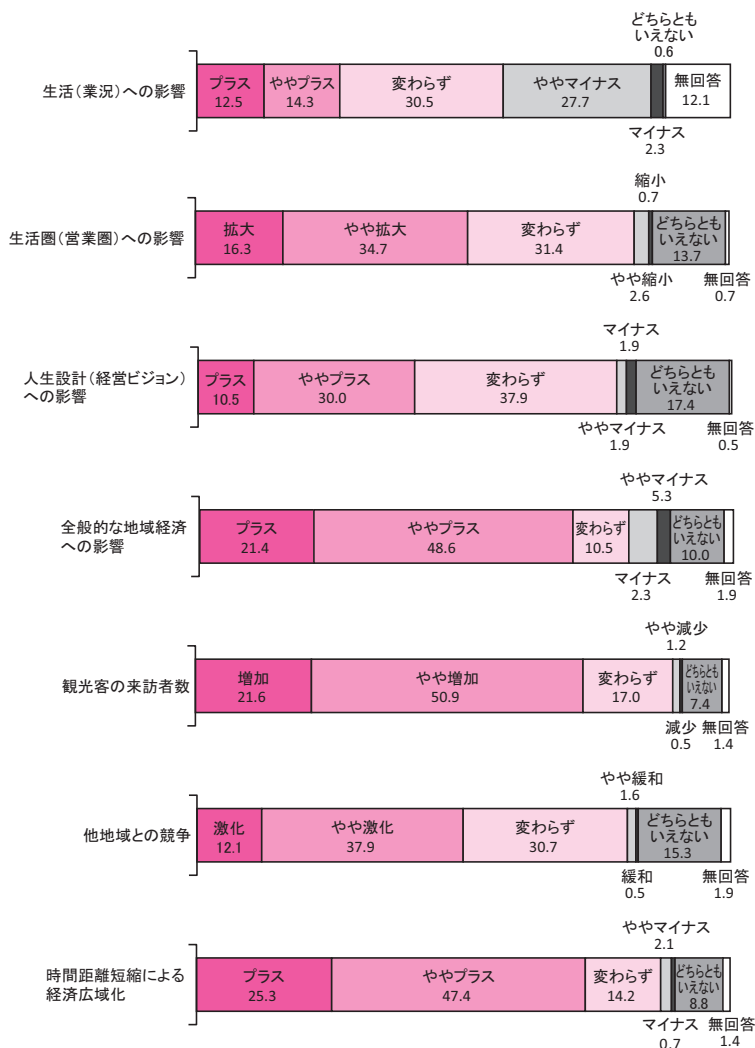
5 リニアの影響 総体の状況認識は

リニア新幹線の考えられる影響について幾つかの項目を設定してお考えを伺った。

これらを概観すると、「時間距離短縮による経済広域化」について「プラス」「ややプラス」計で72%と、開通による主要な環境変化と捉えられているようにみえる。「全体的な地域経済への影響」も同計で70%、「観光客の来訪者数」も「増加」「やや増加」が72%とリニア新幹線によるこれらに及ぶ好影響への期待が高いことを示している。

他方で「他地域との競争」では「激化」「やや激化」計50%と厳しくみており、「生活圏や営業圏への影響」が「拡大」「やや拡大」計51%で好機と捉えているものの、生活や業況への影響は「プラス」「ややプラス」計は26%に止まっている。リニアの開通を、当地域に大きな環境変化をもたらすものと考え、プラス効果に期待しながらも自らの事業等には確実な見通しを得ていない状況があるものと推測される。

更に、個別項目についての当地域の見通し等については続いて次回以降で紹介したい。



(飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平)